



黄河の森

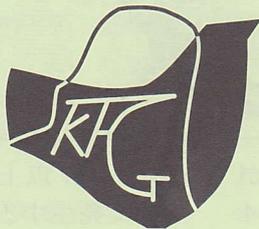
K F G

発行／特定非営利活動法人
黄河の森緑化ネットワーク
常務理事・事務局長／矢野正行
編集責任者／小川良太

〒650-0011
神戸市中央区下山手通り2-13-7
東昌ビル7F 華僑総会内
TEL・FAX:078-392-8328
E-mail:kouganomori@s6.dion.ne.jp
URL:<http://www.kobe-chinese.com/kouganomori>
IP:05031111874



「住吉台植樹地に砂防ダム建設」



ああ あの大河 太古より 流れる誇り
ああ その緑 永久に たやさぬ心
燃えたつ生命 ここに ここに

CONTENTS

- P.2 コロナ禍で事業の転機を迎える
- P.2 環境史・土地開発史・災害史 ②
- P.4 庭木の健康診断 ⑳
- P.4 絵本からのメッセージ ㉔

コロナ禍で事業の転機を迎える

2023年もコロナ感染症による混乱の中で迎えることになりました。あらゆる社会活動が制約と混乱の中にあります。しかし、「黄河の森ネットワーク」の活動もその影響の中にあります。

中国オトカ前旗での植樹活動も地元側の事業実施体制が整わないこともあり、残念ながら2022年度は植樹を行うことができませんでした。また我々の現地の事業状況の確認、カウントパートとの直接協議も2019年以降はできていない状態です。2020年以来中国への入国が事実上不可能な状況では事業の実施を見送るべきだとの考えもあって2022年も事業を中止しました。事業の再開に向けては検討を行っているところです。

一方国内活動は東灘区住吉台の砂防ダムの堰堤内とその周囲の傾斜地で植樹を行ってきたところですが、これも会員間での感染症の広がり避ける意味で活動を中断しています。この間、現地では国交省による新たな砂防ダムの建設が行われることになり、この春に完成を迎えます。当地は六甲山の南斜面にある住吉川の支流が形造った谷地形の中にあります。これまでの植樹用地は上流側から1番目と2番目の堰堤で行ってきたのですが、新たなダムはさらに上流側に高さ14mのダムができることとなります。このダムによる土砂の捕捉量は大型ダンプカーにして700台分になるそうです。この工事による車両の進入路が設置されること

により、これまでの植えてきた木々の一部は仮移植がおこなわれました。

そして工期の完了が近づいた昨年の11月に木々の復元移植の位置と方法について確認協議を、施行者と現地で行いました。この復元作業も2月には完了する予定です。今春にはこの移植された木々の手入れと補植をする必要がありますが、感染症の状況を見ながら日程を考える予定です。

今年も総会を始め諸行事を予定しておりますが、会員の皆様にはそのつご案内をいたします。



住吉台の植樹活動

『黄河の森緑化ネットワーク』
事務局長 矢野 正行

環境史・土地開発史・災害史 ②

立命館大学環太平洋文明研究センター

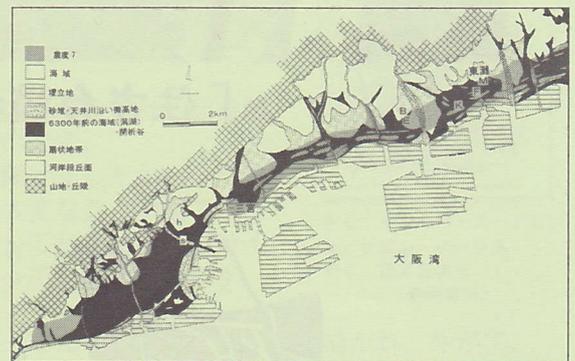
特任教授 高橋 学

—先人の知恵と災害—

成人式も終え、お正月気分も抜けかけたその日、明石海峡のあたりで、一瞬、空が光った。何だ？と思った瞬間、ゴーっという音とともに地面が垂直方向に揺れ、その直後に大きな横揺れがやってきた。地震だ！しかも、いままで経験のない揺れだ。早朝から犬と散歩をしていた地震災害を専門とするI君は身体が硬直して、その場にしゃがみこむことしかできなかったという。1995年1月17日午前5時46分神戸と淡路島とを襲った「兵庫県南部地震だ。寒い冬の朝、多くの人はまだ布団の中で夢にまどろんでいた時だった。それから猛烈な揺れは約11秒間続いた。

その最初の5秒ほどで、タンスや本棚は倒れ、エアコンも落ちてきた。まだ周囲は真っ暗で、ほとんどの人には何が起きたか判らなかった。

気がついた時、2階建ての住宅は1階が無くなっていた。そして、土ほこりとカビの臭い、あちこちで発生した火事の臭いと黒煙が充満していた。この瞬間に6,434人の命が失われた。地震は内陸直下型、震源の深さは約13km、マグニチュード7.3であった。地震の規模自体は、2011年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震のマグニチュード9.0と比較すると約355分の1に過ぎなかった。マグニ



チュード7以上の地震が日本列島周辺で発生するのは5年に約3回。さほど珍しいものではない。しかし、それが大都市神戸で発生したため阪神・淡路大震災と呼ばれる大災害になったのである。

近畿地方の山々は「六甲変動」と呼ばれる地殻変動で地震によって年間約1mm相対的に山地側が隆起、

平野や海が沈降しつつある。以前に神戸を襲ったのは1596年慶長・伏見大地震であり、これからもそのような地震は続くとしたのは藤田和夫先生の研究成果である。先生は深層風化して崩れやすい六甲山地などの花こう岩山地のことを「砂山」とさえ呼んでいた。

1989年兵庫県教育委員会は東灘区深江北町遺跡を発掘調査していた。そこに著者も参加していた。ある時、担当者のO氏と地震の話になり、六甲山地周辺では必ず地震は発生する。近くにあるO氏の自宅は土地条件の良くない場所にあるため周辺は壊滅的な被害を受ける。ただし建築方法が良いので火事の時以外は外に逃げ出さないほうが良いという予測を伝えた。そして実際に兵庫県地震が発生してみると、その予測はほぼ的中していた。「土地条件」、「建築方法」、「建築年代(老朽化)」の最低3点が判れば、被害予測ができることが実証できたのである。

図1は兵庫県や神戸市の発掘に参加して作成した六甲山地南麓の地形分類図(土地条件図)に地震被害を重ねたものである。この図をみると被害が最も大きかった阪神・淡路大震災後新設された震度7の地域は、活断層の存在する山地末端ではなく、海岸に沿ってもない。震度7の範囲は、縄文海進最盛期(当時は6,300年前、現在は年代補正されて7,400年前)の海域や湿地域とほぼ一致している。その中で、神戸市中央区の大倉山と呼ばれる丘陵周辺だけ被害が極端に少なかった。当時、神戸海洋気象台は土地条件の良い丘陵上にあったため周囲の被害の大きさに比べ、気象台周辺だけが非常に被害が少なかったのである。その反省に立って、現在、神戸気象台は土地条件の悪い海沿いに移転している。

もう少し詳しくみると、海岸に沿って延びる数列の砂堆があり、これが注目される。阪神高速3号神戸線は何か所かで倒壊した。その倒壊発生地点は7,400年前の海岸線や砂堆と潟湖(せきこ)の境で



あった。芦屋川では7,400年前の海岸線から西側の潟湖に約600mにわたり最も倒壊が激しかったところがあった。その最西端は砂堆で停止していた。また、西宮市では西宮戎神社の立地する砂堆の東端と潟湖の境で橋脚が倒壊し、スキーバスがあわや落下しそうになった(図2)。

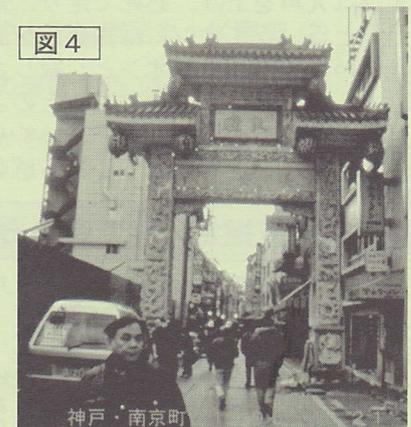


図3は1887年に作成された三宮周辺の地図である。これには様々な重要な情報が描かれている。生田川は東へ人工的に流路変更されるまで現在のフラワーロードを流下していた。この旧河道では、神戸市役所旧館、阪急三宮駅、神戸新聞社などのビルが地震時に倒壊した。またこの段階では湊川は現在の新開地を流れていた。両河川とも人工的に流路を固定されたために、河床が周囲より高い天井川をなしていた。中華街として著名な南京町の街並みは、緩やかにカーブしている。これは南京町が砂堆上に立地しているためである。砂堆は京都府天橋立のように海岸に沿って外海と潟湖とを分断するように延びる。砂堆は海岸近くにあ

りながら土地条件が相対的に安定している。

図4は南京町の様子であるが、少なくとも地震4日後には商売が一部再開していた。ここで注目されるのは、南京町が砂堆上に位置しているために比較的被害が少ないことである。潟湖に立地した新興のデパートなどが致命的な被害を受けたことと比較するとその違いは明確である。銀行についても旧財閥系のものは、砂堆に立地しているものが多く、比較的被害は軽かった。東灘区の深江北町遺跡は砂堆の上に約2,000年前の円形周溝墓(えんけいしゅうこうぼ)が集中していた。その様子からは、この2,000年間地表面は変わっていないことが推測できる。この北側のおよそ30mでは潟湖となっており、約3m下から洪水による花こう岩砂にたびたび埋積されながらも湿田耕作が繰り返してきたことが判明している。そこでは水鳥や偶蹄目(おそらくウシ科)の足跡が残されており、最近まで極めて軟弱な土地条件であったことが判る。

この精度で土地条件を分析すると、砂堆は相対的に安全な場所であり、そこに「南京町」を造ろうと意図した先人たちの知恵に敬意を持たざるを得ない。知恵は命を救い財産を守ったといえよう。



私と環境(37) 庭木の健康診断 ②8

樹木環境研究会「ミルフィーユの会」
天野孝之

庭の手入れ《つる植物》

前回に続き「つる植物」の話です。
17) テイカカズラ (キョウチクトウ科 *Trachelospermum asiaticum*):
境栽木-高木

枝から付着根を出し、高木にも上る。枝分かかれは多くはないが、各節から短枝を出し、葉が密になる。緩く絡んでいるので、地上から引っ張りはがす。地上を這う茎の節から不定根を分岐します。



イロハカエデに絡まりついたテイカカズラ



桜(染井吉野)に登り、花を咲かせているテイカカズラ

18) ノイバラ (バラ科 *Rosa multiflora*): 境栽木-中木

白い花が多量につき、花の時期は見事です。半つる性ですが、樹木類に覆いかぶさるように伸びていきます。取り除くことは容易ですが、株、根系が残りやすく、完全除去は難しいです。また棘があるので危険で注意してください。



満開に咲いた白い花

19) アメリカノウゼンカズラ (ノウゼンカズラ科 *Campsis radicans*):
境栽木-高木

7-8月の真夏に橙色の花を多数つけ、いかにも夏らしい感じを醸し出すつる植物です。繁殖力が強く根絶するのが困難な植物です。幹から気根を出して、小高木のように登っていきます。よく似た中国原産のノウゼンカズラ (*C. grand*

iflora) がありますが、両者とも、移出(逸出)による野生化はしてはいないと思われるます。切り取り駆除だけでは、萌芽力が強く枯死しません。根からの萌芽も認められ、駆除は難しいつる植物です。



地際部の切り株と根系から萌芽してきたアメリカノウゼンカズラ



アメリカノウゼンカズラの花



絵本からの メッセージ 35

「としょかんライオン」

児童文学者 畑中弘子



さく: ミシェル・ヌードセン
え: ケビン・ホークス
やく: 福本友美子
(岩崎書店)

図書館では「静かにすること」がルールとなっていますが、この絵本の舞台も図書館。そして館長のメリウエザーさんは特に決まりにうるさい人だったのです。

登場する「としょかんライオン」は行儀もよく、静かにお話も聞けましたから、出ていくようにとは言われません。楽しい日を過ごしていたある日、大変なことが起こります。メリウエザーさんが高い棚の本をとろうとして転び、骨折をしてしまいます。ライオンは大声を上げ、必死で走り、知らせに行きます。決まりを破ってしまったのです。とうとう「ライオン」は図書館を去ることになります。

辛い気持ちのライオンと、寂しさを隠せない館長のメリウエザーさんの心の動きが丁寧に描かれ、やがて、「としょかんライオン」はもとのように……。 「たまには、ちゃんとしたわけがあって、きまりをまもれないことだってあるんです。いくらとしょかんのきまりでもね」の言葉で話が終わるのも、愉快で嬉しい。一番大切なことを教えてくれる感動の絵本です。

会費・緑化支援金等協力者のお名前 (2021.7.1~2022.12.31現在)

- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---------|------|-----|--------|----|----|----|-------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 劉鄭山木石李麦 | 美正田村 | 宋勝助 | 安一許江原宏 | 本木 | 昭仁 | 文仁 | 佐藤 | 藤正 | 正子 | 古川 | 智啓 | 理功 | 竹馬 | 由文 | 美壁 | 楊河 | 震慧 | 花青 | 田木 | 印刷 | 吉川 | 政野 | 和勲 | 村井 | 一隆 | 幸田 | 悦麟 | |
| | 嘉成 | 健成 | 原 | | 永洋 | 坤龍 | (株)東日 | 琛隆 | 琛隆 | 林陳 | 同明 | 福徳 | 矢野 | 正行 | 宮島 | 河宮 | 美昭 | 雄美 | 花青 | 田木 | 印刷 | 吉川 | 政野 | 和勲 | 村井 | 一隆 | 幸田 | 悦麟 |
| | 雲 | 健成 | 原 | | 永洋 | 坤龍 | (株)東日 | 琛隆 | 琛隆 | 林陳 | 同明 | 福徳 | 矢野 | 正行 | 宮島 | 河宮 | 美昭 | 雄美 | 花青 | 田木 | 印刷 | 吉川 | 政野 | 和勲 | 村井 | 一隆 | 幸田 | 悦麟 |
| | 雲 | 健成 | 原 | | 永洋 | 坤龍 | (株)東日 | 琛隆 | 琛隆 | 林陳 | 同明 | 福徳 | 矢野 | 正行 | 宮島 | 河宮 | 美昭 | 雄美 | 花青 | 田木 | 印刷 | 吉川 | 政野 | 和勲 | 村井 | 一隆 | 幸田 | 悦麟 |
| | 雲 | 健成 | 原 | | 永洋 | 坤龍 | (株)東日 | 琛隆 | 琛隆 | 林陳 | 同明 | 福徳 | 矢野 | 正行 | 宮島 | 河宮 | 美昭 | 雄美 | 花青 | 田木 | 印刷 | 吉川 | 政野 | 和勲 | 村井 | 一隆 | 幸田 | 悦麟 |
| | 雲 | 健成 | 原 | | 永洋 | 坤龍 | (株)東日 | 琛隆 | 琛隆 | 林陳 | 同明 | 福徳 | 矢野 | 正行 | 宮島 | 河宮 | 美昭 | 雄美 | 花青 | 田木 | 印刷 | 吉川 | 政野 | 和勲 | 村井 | 一隆 | 幸田 | 悦麟 |
| | 雲 | 健成 | 原 | | 永洋 | 坤龍 | (株)東日 | 琛隆 | 琛隆 | 林陳 | 同明 | 福徳 | 矢野 | 正行 | 宮島 | 河宮 | 美昭 | 雄美 | 花青 | 田木 | 印刷 | 吉川 | 政野 | 和勲 | 村井 | 一隆 | 幸田 | 悦麟 |
| | 雲 | 健成 | 原 | | 永洋 | 坤龍 | (株)東日 | 琛隆 | 琛隆 | 林陳 | 同明 | 福徳 | 矢野 | 正行 | 宮島 | 河宮 | 美昭 | 雄美 | 花青 | 田木 | 印刷 | 吉川 | 政野 | 和勲 | 村井 | 一隆 | 幸田 | 悦麟 |
| | 雲 | 健成 | 原 | | 永洋 | 坤龍 | (株)東日 | 琛隆 | 琛隆 | 林陳 | 同明 | 福徳 | 矢野 | 正行 | 宮島 | 河宮 | 美昭 | 雄美 | 花青 | 田木 | 印刷 | 吉川 | 政野 | 和勲 | 村井 | 一隆 | 幸田 | 悦麟 |
| | 雲 | 健成 | 原 | | 永洋 | 坤龍 | (株)東日 | 琛隆 | 琛隆 | 林陳 | 同明 | 福徳 | 矢野 | 正行 | 宮島 | 河宮 | 美昭 | 雄美 | 花青 | 田木 | 印刷 | 吉川 | 政野 | 和勲 | 村井 | 一隆 | 幸田 | 悦麟 |
| | 雲 | 健成 | 原 | | 永洋 | 坤龍 | (株)東日 | 琛隆 | 琛隆 | 林陳 | 同明 | 福徳 | 矢野 | 正行 | 宮島 | 河宮 | 美昭 | 雄美 | 花青 | 田木 | 印刷 | 吉川 | 政野 | 和勲 | 村井 | 一隆 | 幸田 | 悦麟 |
| | 雲 | 健成 | 原 | | 永洋 | 坤龍 | (株)東日 | 琛隆 | 琛隆 | 林陳 | 同明 | 福徳 | 矢野 | 正行 | 宮島 | 河宮 | 美昭 | 雄美 | 花青 | 田木 | 印刷 | 吉川 | 政野 | 和勲 | 村井 | 一隆 | 幸田 | 悦麟 |
| | 雲 | 健成 | 原 | | 永洋 | 坤龍 | (株)東日 | 琛隆 | 琛隆 | 林陳 | 同明 | 福徳 | 矢野 | 正行 | 宮島 | 河宮 | 美昭 | 雄美 | 花青 | 田木 | 印刷 | 吉川 | 政野 | 和勲 | 村井 | 一隆 | 幸田 | 悦麟 |
| | 雲 | 健成 | 原 | | 永洋 | 坤龍 | (株)東日 | 琛隆 | 琛隆 | 林陳 | 同明 | 福徳 | 矢野 | 正行 | 宮島 | 河宮 | 美昭 | 雄美 | 花青 | 田木 | 印刷 | 吉川 | 政野 | 和勲 | 村井 | 一隆 | 幸田 | 悦麟 |
| | 雲 | 健成 | 原 | | 永洋 | 坤龍 | (株)東日 | 琛隆 | 琛隆 | 林陳 | 同明 | 福徳 | 矢野 | 正行 | 宮島 | 河宮 | 美昭 | 雄美 | 花青 | 田木 | 印刷 | 吉川 | 政野 | 和勲 | 村井 | 一隆 | 幸田 | 悦麟 |
| | 雲 | 健成 | 原 | | 永洋 | 坤龍 | (株)東日 | 琛隆 | 琛隆 | 林陳 | 同明 | 福徳 | 矢野 | 正行 | 宮島 | 河宮 | 美昭 | 雄美 | 花青 | 田木 | 印刷 | 吉川 | 政野 | 和勲 | 村井 | 一隆 | 幸田 | 悦麟 |
| | 雲 | 健成 | 原 | | 永洋 | 坤龍 | (株)東日 | 琛隆 | 琛隆 | 林陳 | 同明 | 福徳 | 矢野 | 正行 | 宮島 | 河宮 | 美昭 | 雄美 | 花青 | 田木 | 印刷 | 吉川 | 政野 | 和勲 | 村井 | 一隆 | 幸田 | 悦麟 |
| | 雲 | 健成 | 原 | | 永洋 | 坤龍 | (株)東日 | 琛隆 | 琛隆 | 林陳 | 同明 | 福徳 | 矢野 | 正行 | 宮島 | 河宮 | 美昭 | 雄美 | 花青 | 田木 | 印刷 | 吉川 | 政野 | 和勲 | 村井 | 一隆 | 幸田 | 悦麟 |
| | 雲 | 健成 | 原 | | 永洋 | 坤龍 | (株)東日 | 琛隆 | 琛隆 | 林陳 | 同明 | 福徳 | 矢野 | 正行 | 宮島 | 河宮 | 美昭 | 雄美 | 花青 | 田木 | 印刷 | 吉川 | 政野 | 和勲 | 村井 | 一隆 | 幸田 | 悦麟 |
| | 雲 | 健成 | 原 | | 永洋 | 坤龍 | (株)東日 | 琛隆 | 琛隆 | 林陳 | 同明 | 福徳 | 矢野 | 正行 | 宮島 | 河宮 | 美昭 | 雄美 | 花青 | 田木 | 印刷 | 吉川 | 政野 | 和勲 | 村井 | 一隆 | 幸田 | 悦麟 |
| | 雲 | 健成 | 原 | | 永洋 | 坤龍 | (株)東日 | 琛隆 | 琛隆 | 林陳 | 同明 | 福徳 | 矢野 | 正行 | 宮島 | 河宮 | 美昭 | 雄美 | 花青 | 田木 | 印刷 | 吉川 | 政野 | 和勲 | 村井 | 一隆 | 幸田 | 悦麟 |
| | 雲 | 健成 | 原 | | 永洋 | 坤龍 | (株)東日 | 琛隆 | 琛隆 | 林陳 | 同明 | 福徳 | 矢野 | 正行 | 宮島 | 河宮 | 美昭 | 雄美 | 花青 | 田木 | 印刷 | 吉川 | 政野 | 和勲 | 村井 | 一隆 | 幸田 | 悦麟 |
| | 雲 | 健成 | 原 | | 永洋 | 坤龍 | (株)東日 | 琛隆 | 琛隆 | 林陳 | 同明 | 福徳 | 矢野 | 正行 | 宮島 | 河宮 | 美昭 | 雄美 | 花青 | 田木 | 印刷 | 吉川 | 政野 | 和勲 | 村井 | 一隆 | 幸田 | 悦麟 |
| | 雲 | 健成 | 原 | | 永洋 | 坤龍 | (株)東日 | 琛隆 | 琛隆 | 林陳 | 同明 | 福徳 | 矢野 | 正行 | 宮島 | 河宮 | 美昭 | 雄美 | 花青 | 田木 | 印刷 | 吉川 | 政野 | 和勲 | 村井 | 一隆 | 幸田 | 悦麟 |
| | 雲 | 健成 | 原 | | 永洋 | 坤龍 | (株)東日 | 琛隆 | 琛隆 | 林陳 | 同明 | 福徳 | 矢野 | 正行 | 宮島 | 河宮 | 美昭 | 雄美 | 花青 | 田木 | 印刷 | 吉川 | 政野 | 和勲 | 村井 | 一隆 | 幸田 | 悦麟 |
| | 雲 | 健成 | 原 | | 永洋 | 坤龍 | (株)東日 | 琛隆 | 琛隆 | 林陳 | 同明 | 福徳 | 矢野 | 正行 | 宮島 | 河宮 | 美昭 | 雄美 | 花青 | 田木 | 印刷 | 吉川 | 政野 | 和勲 | 村井 | 一隆 | 幸田 | 悦麟 |
| | 雲 | 健成 | 原 | | 永洋 | 坤龍 | (株)東日 | 琛隆 | 琛隆 | 林陳 | 同明 | 福徳 | 矢野 | 正行 | 宮島 | 河宮 | 美昭 | 雄美 | 花青 | 田木 | 印刷 | 吉川 | 政野 | 和勲 | 村井 | 一隆 | 幸田 | 悦麟 |
| | 雲 | 健成 | 原 | | 永洋 | 坤龍 | (株)東日 | 琛隆 | 琛隆 | 林陳 | 同明 | 福徳 | 矢野 | 正行 | 宮島 | 河宮 | 美昭 | 雄美 | 花青 | 田木 | 印刷 | 吉川 | 政野 | 和勲 | 村井 | 一隆 | 幸田 | 悦麟 |
| | 雲 | 健成 | 原 | | 永洋 | 坤龍 | (株)東日 | 琛隆 | 琛隆 | 林陳 | 同明 | 福徳 | 矢野 | 正行 | 宮島 | 河宮 | 美昭 | 雄美 | 花青 | 田木 | 印刷 | 吉川 | 政野 | 和勲 | 村井 | 一隆 | 幸田 | 悦麟 |
| | 雲 | 健成 | 原 | | 永洋 | 坤龍 | (株)東日 | 琛隆 | 琛隆 | 林陳 | 同明 | 福徳 | 矢野 | 正行 | 宮島 | 河宮 | 美昭 | 雄美 | 花青 | 田木 | 印刷 | 吉川 | 政野 | 和勲 | 村井 | 一隆 | 幸田 | 悦麟 |
| | 雲 | 健成 | 原 | | 永洋 | 坤龍 | (株)東日 | 琛隆 | 琛隆 | 林陳 | 同明 | 福徳 | 矢野 | 正行 | 宮島 | 河宮 | 美昭 | 雄美 | 花青 | 田木 | 印刷 | 吉川 | 政野 | 和勲 | 村井 | 一隆 | 幸田 | 悦麟 |
| | 雲 | 健成 | 原 | | 永洋 | 坤龍 | (株)東日 | 琛隆 | 琛隆 | 林陳 | 同明 | 福徳 | 矢野 | 正行 | 宮島 | 河宮 | 美昭 | 雄美 | 花青 | 田木 | 印刷 | 吉川 | 政野 | 和勲 | 村井 | 一隆 | 幸田 | 悦麟 |
| | 雲 | 健成 | 原 | | 永洋 | 坤龍 | (株)東日 | 琛隆 | 琛隆 | 林陳 | 同明 | 福徳 | 矢野 | 正行 | 宮島 | 河宮 | 美昭 | 雄美 | 花青 | 田木 | 印刷 | 吉川 | 政野 | 和勲 | 村井 | 一隆 | 幸田 | 悦麟 |
| | 雲 | 健成 | 原 | | 永洋 | 坤龍 | (株)東日 | 琛隆 | 琛隆 | 林陳 | 同明 | 福徳 | 矢野 | 正行 | 宮島 | 河宮 | 美昭 | 雄美 | 花青 | 田木 | 印刷 | 吉川 | 政野 | 和勲 | 村井 | 一隆 | 幸田 | 悦麟 |
| | 雲 | 健成 | 原 | | 永洋 | 坤龍 | (株)東日 | 琛隆 | 琛隆 | 林陳 | 同明 | 福徳 | 矢野 | 正行 | 宮島 | 河宮 | 美昭 | 雄美 | 花青 | 田木 | 印刷 | 吉川 | 政野 | 和勲 | 村井 | 一隆 | 幸田 | 悦麟 |
| | 雲 | 健成 | 原 | | 永洋 | 坤龍 | (株)東日 | 琛隆 | 琛隆 | 林陳 | 同明 | 福徳 | 矢野 | 正行 | 宮島 | 河宮 | 美昭 | 雄美 | 花青 | 田木 | 印刷 | 吉川 | 政野 | 和勲 | 村井 | 一隆 | 幸田 | 悦麟 |
| | 雲 | 健成 | 原 | | 永洋 | 坤龍 | (株)東日 | 琛隆 | 琛隆 | 林陳 | 同明 | 福徳 | 矢野 | 正行 | 宮島 | 河宮 | 美昭 | 雄美 | 花青 | 田木 | 印刷 | 吉川 | 政野 | 和勲 | 村井 | 一隆 | 幸田 | 悦麟 |
| | 雲 | 健成 | 原 | | 永洋 | 坤龍 | (株)東日 | 琛隆 | 琛隆 | 林陳 | 同明 | 福徳 | 矢野 | 正行 | 宮島 | 河宮 | 美昭 | 雄美 | 花青 | 田木 | 印刷 | 吉川 | 政野 | 和勲 | 村井 | 一隆 | 幸田 | 悦麟 |
| | 雲 | 健成 | 原 | | 永洋 | 坤龍 | (株)東日 | 琛隆 | 琛隆 | 林陳 | 同明 | 福徳 | 矢野 | 正行 | 宮島 | 河宮 | 美昭 | 雄美 | 花青 | 田木 | 印刷 | 吉川 | 政野 | 和勲 | 村井 | 一隆 | 幸田 | 悦麟 |
| | 雲 | 健成 | 原 | | 永洋 | 坤龍 | (株)東日 | 琛隆 | 琛隆 | 林陳 | 同明 | 福徳 | 矢野 | 正行 | 宮島 | 河宮 | 美昭 | 雄美 | 花青 | 田木 | 印刷 | 吉川 | 政野 | 和勲 | 村井 | 一隆 | 幸田 | 悦麟 |
| | 雲 | 健成 | 原 | | 永洋 | 坤龍 | (株)東日 | 琛隆 | 琛隆 | 林陳 | 同明 | 福徳 | 矢野 | 正行 | 宮島 | 河宮 | 美昭 | 雄美 | 花青 | 田木 | 印刷 | 吉川 | 政野 | 和勲 | 村井 | 一隆 | 幸田 | 悦麟 |
| | 雲 | 健成 | 原 | | 永洋 | 坤龍 | (株)東日 | 琛隆 | 琛隆 | 林陳 | 同明 | 福徳 | 矢野 | 正行 | 宮島 | 河宮 | 美昭 | 雄美 | 花青 | 田木 | 印刷 | 吉川 | 政野 | 和勲 | 村井 | 一隆 | 幸田 | 悦麟 |
| | 雲 | 健成 | 原 | | 永洋 | 坤龍 | (株)東日 | 琛隆 | 琛隆 | 林陳 | 同明 | 福徳 | 矢野 | 正行 | 宮島 | 河宮 | 美昭 | 雄美 | 花青 | 田木 | 印刷 | 吉川 | 政野 | 和勲 | 村井 | 一隆 | 幸田 | 悦麟 |
| | 雲 | 健成 | 原 | | 永洋 | 坤龍 | (株)東日 | 琛隆 | 琛隆 | 林陳 | 同明 | 福徳 | 矢野 | 正行 | 宮島 | 河宮 | 美昭 | 雄美 | 花青 | 田木 | 印刷 | 吉川 | 政野</ | | | | | |